

令和5年度

鳴門市明神小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 主体的に学び、表現できる児童の育成
- ② 主体的に対話的な授業づくりと実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
---------	----	----

【小中連携または中高連携における共通の取組】

協働的な学びを充実させるためのホワイトボード等の板書の工夫やノートを使った振り返りの仕方について、統一したものを作成して取り組む。

【各校の取組状況の把握について】

校内研修での授業研究や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の活動の時間や授業において、与えられた課題を解決するために、真面目に取り組むことができている。 ●段落相互の関係や問いの意図など、文章を正確に読み取る力に課題がある。	・学習の過程を通して基礎・基本の力を身につけ、習得した知識を他の学習や生活で活用することができる。 ・書かれてあることを正確に読み取ることができる。	・特に算数の授業においては、終末に適用問題を解かせることにより、本時に学習した内容の定着がはかれるようにする。 ・何が書かれているか捉えさせるため、音読をさせたり問題提起の部分等をアンダーラインや丸で囲ませたりする。	・朝の活動ではタブレットを利用した学習を継続する。 ・家庭学習の習慣をつけ、反復学習させることにより、基礎・基本の定着や活用する力を身につけられるようにする。	・漢字、計算等基礎基本は定着しつつある。 ・家庭とも連携し、宿題をする児童が昨年度より増えた。 ・習得した知識の活用、読み取りの力には課題がある。 ・タブレットを活用した学習を継続し、基礎学力の定着をはかることができた。	・決まった宿題だけでなく、児童が自主的に家庭学習ができるようにする。 ・一人一人に応じた指導を工夫改善する。 ・ゆっくりと問題文を読む意識をもたせ、文章を正確に読み取るスキルを育てる。 ・問題を精選し、どの児童も取り組み続けられるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを文章で表現したり、発表したりする児童は多い。 ●教師や友達の話を最後まで静かに聞くことができない児童がいる。 ●自分の考えと友達の考えを比べて聞いたり、複数の資料を比べてたりして、自分の考えを広げたり深めたりすることを苦手としている。	・「話すこと・聞くこと」などの基本的な学習態度を身につけている。 ・話し合い活動を通して、自分と友達の考えを比べ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・学習や生活において、適切な言語活動により表現することができる。	・話し方の話型や聞き方を徹底することにより、場に応じた話し方・聞き方ができるようにする。 ・学びの場を充実させられるように問い直し等の働きかけをする。 ・「なぜ」「どうして」など問い返しを行うことで、児童の考えを深めるようにする。 ・タブレットの効果的な活用を図る。	・「読むこと」の領域において単元を貫く言語活動や並行読書、相互交流を取り入れることで考えを広げたり、深めたりする機会を増やす。 ・振り返りを含め、「書く」学習を増やすようにする。 ・タブレット活用の工夫をする。	・学習規律は身に付いてきたが、話の内容を正確に聞く、読むことに課題が見られる。 ・適切な言語活動の表現に課題が残る。 ・タブレットを使って、自分の思いを表現する児童もいた。 ・話し合い活動や問い返しによって、自分の考えを広げたり深めたりできるようになってきた。	・ペアやグループ学習で新しい考えを得たり、自分の考えを高めたりできるようにする。 ・人権教育を基盤におき、適切な言語活動による表現力を育む。 ・聞く姿勢、待つ姿勢を育てていく。 ・学びを受け入れ共有できるような学級づくりを継続していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○得意なことや興味のあることには意欲的に挑戦し、やらなければいけないことは最後までやり遂げようとする姿が見られる。 ●苦手な学習は、すぐにあきらめてしまう児童が多い。 ●家庭学習の時間が十分にとれていない児童がいる。	・めあてをつかみ、主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の課題を把握し、解決できるように根気強く努力することができる。 ・わからない問題があったときそのままにせず、きいたり調べたりできる。	・児童が、めあてを設定する。 ・自力解決、考えを共有する、まとめの時間を確保することに、「できた」という達成感を味わわせ、学習意欲の向上を図る。 ・学んだことを振り返る場を設定する。 ・質問時間や直す時間をとるなど振り返りをさせ、次の家庭学習へとつなげる。	・振り返りを感じただけで終わらず、学びの実感を持ち、新たな気付きや探究課題を見つけられるようにする。 ・既習事項から、問題解決できるような振り返りをする。	・苦手な学習に対し、あきらめず取り組む児童が増えつつあるが、友達や教師に頼りすぎてしまう児童もいる。 ・問題の提示や発問、問い直しの工夫により、既習事項を生かして問題解決に取り組む姿が増えている。 ・ICTを使って具体的に説明したことで、最初からつまづく児童が少なくなった。	・児童が「わかる」と実感できる授業を展開する。 ・苦手な学習をあきらめがちな児童への方策について、全校で取り組む。 ・話し合い活動やタブレットの活用を進め、根拠を含めて伝えることや比較することなどを経験できるようにする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

